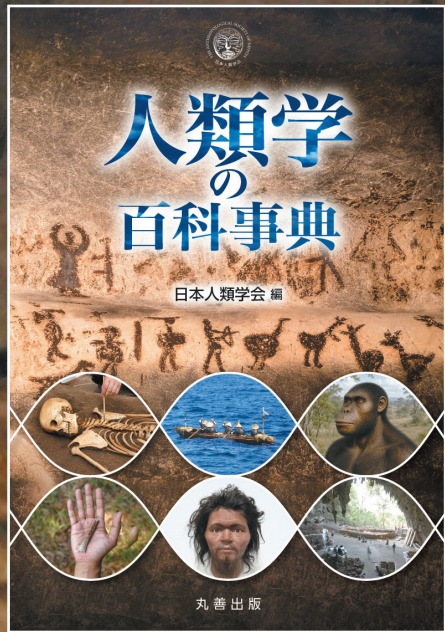




人類学の百科事典

日本人類学会 編

A5判・714頁

定価 26,400円(本体 24,000円+税10%) ISBN978-4-621-31298-8

- 全14章構成の287項目で、人類の起源と進化、遺伝、環境への適応、身体
の多様性、心のあり方、文化、現代的視点までを網羅。
- 各テーマは、重要事項を厳選した1見開き完結型で、「基本概念」「研究の展開」
「現代的トピックス・展望」に沿ってわかりやすく解説。
- 執筆者は総勢156名。調べる用途のみならず“読む楽しさ”も備えた、信頼で
きる知の入口となる一冊。

【関連書籍】



霊長類学の百科事典

日本霊長類学会 編

A5判・752頁

定価 27,500円(本体 25,000円+税10%) ISBN978-4-621-30804-2

霊長類学の歴史をたどった上で、霊長類の分類・系統・進化、形態、遺伝などの側面から霊長類研究にアプローチする。人類学的関心の追求にも役立つ中項目事典。



哺乳類学の百科事典

一般社団法人 日本哺乳類学会 編

A5判・548頁

定価 24,200円(本体 22,000円+税10%) ISBN978-4-621-31196-7

海・陸・極地などさまざまな地域に生息する多彩な哺乳類について、分類・分布・遺伝・形態・生理・生態・保護管理といった人間とのかかわりまで、幅広い観点から充実解説。



古生物学の百科事典

日本古生物学会 編

A5判・790頁

定価 26,400円(本体 24,000円+税10%) ISBN978-4-621-30758-8

生命誕生の38億年前からの長大な生命史の重要ポイントを305項目で解説。地質学、地球科学、環境学などの情報も俯瞰できる。



遺伝学の百科事典

継承と多様性の源
公益財団法人 遺伝学普及会
日本遺伝学会 編

A5判・690頁

定価 24,200円(本体 22,000円+税10%) ISBN978-4-621-30660-4

基礎知識から先端的な研究内容まで幅広くまとめ、一冊で遺伝学の重要テーマと、発展の歴史を学ぶことができる。

丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17 神田神保町ビル
FAX(048)852-5591(受注センター) <https://www.maruzen-publishing.co.jp/>

2026年7月刊行 ご注文はお近くの書店まで

注文書	人類学の百科事典	定価 26,400円(本体 24,000円+税10%) ISBN978-4-621-31298-8	冊
	お名前		冊
	ご住所 〒		
	TEL		

取扱店

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。

tkp.26.H



「人類とは何か」を読み解き、人類学の全体像を一冊でたどる

人類学の百科事典

日本人類学会 編

A5判・714頁

定価 26,400円(本体 24,000円+税10%)

ISBN978-4-621-31298-8

編集委員長

中 務 真 人 京都大学大学院理学研究科教授

編集幹事(五十音順)

太 田 博 樹 東京大学大学院理学系研究科教授
中 原 直 道 東京大学大学院理学系研究科教授
海 部 陽 介 東京大学総合研究博物館教授
奈 良 貴 史 新潟医療福祉大学自然人類学研究所教授
松 本 晶 子 琉球大学国際地域創造学部教授
山 内 太 郎 北海道大学大学院保健科学研究院教授
米 田 穰 東京大学総合研究博物館教授

編集委員(五十音順)

大 西 秀 之 同志社女子大学現代社会学部教授
小 田 亮 名古屋工業大学大学院工学研究科教授
河 村 正 二 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
杵 掛 展 之 総合研究大学院大学統合進化科学研究センター教授
澤 野 礼 子 慶應義塾大学文学部教授
瀧 上 純 明 新潟医療福祉大学自然人類学研究所教授
西 村 舞 剛 国立科学博物館生命史研究部研究員
萩 原 康 雄 大阪大学大学院人間科学研究科教授
樋 口 重 和 新潟医療福祉大学自然人類学研究所講師
松 浦 秀 治 九州大学大学院芸術工学研究院教授
お茶の水女子大学名誉教授



最新情報・詳細は
こちらから
丸善出版ホームページへ



丸 善 出 版

◆電子書籍のお求めはこちらから



※電子版発売、および販売ストア等は変更になる場合がございます。

刊行にあたって（一部抜粋）

2023年6月、丸善出版より百科事典刊行の提案をいただき、日本人類学会理事会で議論した結果、本書の刊行を決定しました。提案を受けたのは、自然人類学(あるいは生物人類学ともいいます)研究の前線でこんなにち行われている研究内容を包括的に扱った和書が必要だと考えたためです。

雄山閣出版から発行された『人類学講座』は、日本人類学会が総力を結集し、自然人類学の全分野を扱った偉業ですが、初巻の発行以来40年以上が経過しました。そのため、自然人類学に関する研究領域を漏れなく取り上げ、最新の知見に基づいた正確な情報を体系的に提供する百科事典を出版することは、時宜に became ことだと考えたのです。わからない事柄に出合うとインターネットを頼りにしがた世の中ですが、信頼できる情報源が現れることで、不正確な情報が修正されることも期待しています。

また、本書は丸善出版よりシリーズ刊行されている中項目事典の一冊です。重要かつ読者の関心を引きそうなテーマを選び出し「見開き2頁で完結する読み物」として編集されています。どこからでも読むことができ、基本事項の確認はもちろん、関連する事項の背景を短い時間で把握することにも役立ちます。自然人類学を中心としつつ、生理人類学、生態人類学、応用人類学、考古学、地球科学、文化人類学など関連領域にも踏み込んでいます。そのため書名も『自然人類学の百科事典』ではなく『人類学の百科事典』としました。

日本の人類学は150年ほど前、ヒト・人間がもつ広範な属性を研究対象とする総合人類学として始まりました。現代において当時と同じかたちの総合人類学を復活させることは必ずしも有益とは思えません。しかし、ヒトという存在の本質と背景、そして可能性を理解するには、「○○学」「○○人類学」の垣根にとらわれた取組みだけでは不十分といえるでしょう。本書には、自然人類学的視点から俯瞰した総合的な人類学を提示したいという思いも込められています。

学生と一般社会人の読者には、知りたい事項を検索するだけではなく、本屋の書棚に並べられた本の背表紙を見るように、人類学の広がり、研究の多様性を眺めてもらいたいと思っています。また、研究者にとっても、自分の専門領域から離れた事柄について体系化された知識を更新していくための助けとなることを期待しています。

本書は14の章で、計287項目を取り上げています。執筆は156名の方にご協力いただきました。紙幅の制限から、せっかく執筆いただいた内容を割愛せざるを得なかった項目も少なくありません。また、項目と執筆者の選定、百科事典としての統一性の確保など、編集にあたっては18名の編集委員に多大なご尽力をいただきました。心より感謝申し上げます。

2026年6月

編集委員長 中 務 真 人



【内容見本】



表紙写真
※〔〕内は撮影者・提供元(上段左から右、下段左から右へ)

ホモ・フローレンシエンシス *Homo floresiensis* (フローレス原人、約70万年前)の上腕骨[提供:海部 陽介]／ジャワ原人の頭骨化石(約110万年前)[提供:海部 陽介]／3万年前の航海再現実験の様子。丸木舟で台湾から与那国島を目指した[提供:海部 陽介]／マレー半島の熱帯林に暮らす狩猟採集民パテの家族の移動[提供:河合 文]／白保4号(約2万〜7000年前)の復顔像[提供:河野 礼子]／フローレス原人の遺跡(インドネシア、リヤン・プア洞窟)[提供:海部 陽介]

目次

1章 自然人類学とは何か

【担当編集委員:中務真人・河野礼子】

こんにちの自然人類学研究／草創期の自然人類学研究／ダーウィン進化論の影響／日本の人類学史(明治)／日本の人類学史(大正〜終戦まで)／戦後日本の人類学史(国内研究)／戦後日本の人類学史(海外調査)／日本人類学会／【コラム】先駆者はつらいよ

2章 人体の構造と機能

【担当編集委員:荻原直道・西村 剛】

頭蓋／脳／脊髄／顔／眼／鼻／耳／口／歯／喉／胸郭・脊柱／腰・殿部／肩／前肢／後肢／手／足／循環器／呼吸器／消化器／生殖器／乳房／外皮／指紋・掌紋／プロポーション／体性感覚／聴覚／平衡覚／視覚／嗅覚・味覚／出産／歩行／走行／発話／マニピュレーション／移動効率／二足歩行の進化／手の進化／脳の進化／歯の進化／体格の進化／生体計測法／形態分析／動作分析／代謝エネルギー分析／筋骨格シミュレーション／筋骨格系の有限要素解析／【コラム】陰茎骨

3章 遺伝人類学

【担当編集委員:太田博樹・河村正二】

人類学における遺伝学分野／ヒトの遺伝的多型／分岐年代の推定／混血推定法／正の自然選択の検出／人口動態推定／移住推定法／ヒトゲノム解読／ヒトゲノム多様性の国際プロジェクト／中立理論とヒト進化／チンパンジーとヒトのゲノムの違い／染色体／ヒト進化とエピゲノム／肥満に関する遺伝子／ヒトの視覚オプティン遺伝子と色覚の多様性／嗅覚に関する遺伝子／味覚に関する遺伝子／お酒に関する遺伝子／痛風に関する遺伝子／食に関する遺伝子／感染症に関する遺伝子／免疫／血液型／高地適応に関する遺伝子／海洋への進出と遺伝子／ヒト特有の疾患／顔に関する遺伝子／古代ゲノム学の歴史／ゲノム情報の考古学への応用／家畜ゲノム／害獣ゲノム／栽培植物ゲノム／人類史とウィルス／多能性幹細胞を用いた人類学研究／【コラム】3G

4章 骨考古学

【担当編集委員:奈良貴史・萩原康雄】

埋葬人骨の取り上げ方／人骨のタフォノミー／出土人骨の整理法／年齢推定法／性別推定法／身長推定法／未成人骨／歯の形態／歯の咬耗／焼人骨／損傷人骨／骨病変／口腔内病変／ストレスマーカー／生活痕／頭蓋変形／人骨加工／抜歯／古組織学／復顔／妊娠出産痕／形態小変異／筋骨格ストレスマーカー(MSMs/EC)／ミイラ／血縁関係の推定／【コラム】骨考古学?生物考古学?

5章 骨の化学分析による人類学

【担当編集委員:米田 稔・瀧上 舞】

同位体生態学と人類学／炭素同位体比とC4植物利用／窒素同位体比と食物連鎖／人類による海産物利用／生活史の復元／食の地域差／食の時代変遷／縄文時代の食生活／弥生時代の食生活／食の個人差と社会／給餌からみた家畜管理／プロテオーム分析／同位体による移動復元／法科学への応用／文化財科学と古人骨／【コラム】考古学と骨の化学分析

6章 年代測定と第四紀の環境変動

【担当編集委員:米田 稔・松浦秀治・瀧上 舞】

地球の動きと気候の変化／海洋堆積物による地球環境復元研究／氷床コアに記録された古環境／サンゴ・石筍による東アジアの古環境復元／湖沼堆積物に記録された日本の古植生／年代学と人類学／猿人の年代／原人の年代／旧人の年代／日本列島の旧石器時代人骨の年代／放射性炭素年代測定の基礎と応用／較正年代と海洋リサーブ効果と人骨の年代決定／旧石器時代・縄文時代の絶対年代／弥生時代の絶対年代／【コラム】“人新世”

7章 猿人の進化

【担当編集委員:中務真人・河野礼子】

化石類人猿の時代／人類と類人猿の分岐／猿人の種類と分布／東アフリカの

猿人遺跡／南部アフリカの猿人遺跡／猿人の系統進化／初期猿人の咀嚼器官／初期猿人の運動器官／初期猿人の古環境／直立二足性の進化仮説／アウストラロピテクスの咀嚼器官／アウストラロピテクスの運動器官／頑丈型猿人の特徴／猿人の食性と生息環境／猿人の性差／猿人の成長／猿人の歩容／猿人の道具使用／【コラム】猿人化石の研究史

8章 原人〜旧人の進化

【担当編集委員:海部陽介・奈良貴史】

ホモ属の人類(原人,旧人,ホモ・サピエンス)／氷河時代のはじまり(ホモ属誕生期の古環境)／原人の出現と人類最初の出アフリカ／ホモ・エレクトスの出現と進化／ジャワ原人と北京原人／特殊化した原人／アフリカの旧人／ヨーロッパの旧人(ネアンデルタール人)／アジアの旧人(その多様性とデニソワ人)／原人の文化と前期旧石器時代／旧人の文化と中期旧石器時代／原人の遺跡／旧人の遺跡／【コラム】原人と旧人の分布域

9章 ホモ・サピエンスの進化

【担当編集委員:海部陽介・奈良貴史】

ホモ・サピエンス(新人)と後期旧石器時代／アフリカで誕生したホモ・サピエンス／世界拡散の頃(最終氷期)の地球／ホモ・サピエンスの世界拡散／ホモ・サピエンスと古代型人類の混血／後期旧石器時代のアフリカとユーラシア／日本列島〜オーストラリア大陸への拡散／極北〜アメリカ大陸への拡散／新石器時代とは／新石器時代の西アジア／新石器時代の東部アジア／新石器時代のオセアニア／新石器時代のヨーロッパ／新石器時代のシベリアとアメリカ大陸／新石器時代における健康と寿命／ホモ・サピエンスの多様化(体格と歯)／ホモ・サピエンスの多様化(皮膚色)／【コラム】失われた人類の多様性

10章 日本列島の人類史

【担当編集委員:奈良貴史・澤田純明】

最初の日本列島人／琉球列島の更新世人骨／縄文時代人の頭骨／縄文時代人の体格と四肢骨／縄文時代人のDNA／弥生時代の人骨／古墳時代の人骨／弥生・古墳時代人のDNA／オホーツク文化期の人骨／オホーツク人のDNA／奈良・平安時代の人骨／鎌倉・室町時代の人骨／江戸時代の人骨／アイヌ文化期の人骨／アイヌ文化期の人々のDNA／琉球列島の古人骨／琉球列島の人々のDNA／日本列島人の集団史(古人骨DNA)／日本列島人の集団史(現代人DNA)／頭骨形態の時代変化／四肢骨形態の時代変化／【コラム】変化する現代人

11章 ヒトと他の動物の連続性

【担当編集委員:松本晶子・沓掛展之】

比較研究からみるヒトの進化／寿命と繁殖／メスの繁殖戦略／オスの繁殖戦略／霊長類の環境温度に対する適応／食と環境適応／食物と道具使用／肉食／化石人類の被食／ヒトの祖先の対捕食者戦略／捕食者に対抗する音声と認知／社会脳と知性の進化／集団意思決定のメカニズム／集団行動と自己組織化／心の連続性と特異性／集団内・集団間の社会関係／父系社会と母系社会の進化／【コラム】進化人類学における系統比較

12章 ヒトの心と社会の進化

【担当編集委員:松本晶子・小田 亮】

進化した心／火の使用と料理／感情の進化／原始宗教／芸術／協力和他行動の進化／分配／ことばの使用／学習と教育／規範と道德の進化／自己家畜化／暴力と殺人／差別・偏見／恋愛と結婚／【コラム】まばたき行動

13章 ヒトの生態と文化

【担当編集委員:山内太郎・大西秀之】

狩猟採集／漁撈／農耕／牧畜／適応／分業／生活時間／社会組織／人口／階層／成長／食と栄養／衛生と健康／文化進化／ドメスティケーション／娯楽と「遊び仕事」／【コラム】生態人類学

14章 現代社会との関わり

【担当編集委員:太田博樹・樋口重和】

ものづくり／スポーツ／睡眠と現代社会／照明環境／温熱環境／宇宙環境と人類／知性／創造性／冒険心／発達障害／ジェンダー／エスニシティ／ジェネレーション／医療に関する人類学／「人種」的思考からの脱却／【コラム】AIと人間の未来